第2学年3組　算数科学習指導案

**１　題材名**はこの形をしらべよう

**２　本時の学習指導**

（１）目標

　　　○箱の構成要素である辺や頂点の特徴をとらえることができる。（数学的な考え方）

（２）展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ○指導上の留意点 | 時間 |
| １　前時の学習を振り返る。  ２　問題場面を知る。  ひごと玉をつかってはこの形を作ろう。  ３　ひごと玉で箱の形を作る。  ＜予想される児童の反応＞  グループの活動Ⅰ  C1　同じ四角形を2個作って、それを4本のひごでつなげればいいね。  C2　つなぐひごは同じ長さのものでなければならないね。  グループの活動Ⅱ  C1　四角形を1個作って、そこに4本の同じ長さの柱を立てて、それから屋根を作るのはどう？  C2　下の面と同じひごが必要になるね。  グループの活動Ⅲ  C1　箱は6つの面でできているのだから四角形を6つ作ってつなげてみよう。  C2　つなげる時に、いらなくなるひごと玉があるね。  ４　本時の課題をつかむ。  作ったはこと同じところと違うところを考えよう。  ５　作った箱を見て気付いたことを話し合い、発表する。  ＜予想される児童の反応＞  C1　使ったひごの数はどの形も合わせて12本だね。  C2　玉の数はどれも８つだね。  C3　玉はひごが3つ集まったところにあるね。  C4　同じひごを使ってできた箱はさいころの形になるね。  ６　前時に作った紙の箱と比べて、対応させる。  ７　本時の学習のまとめをする。  どのはこもへんは12本、ちょう点は8つである。  同じ長さのへんは4本ずつ  ある。  ８　片付けをする。 | ○前時に紙で作った箱を用いて、面の数や形を復習することで、スムーズに本時の学習に入れるようにする。   |  |  | | --- | --- | | |  | | --- | | ＜用意するもの（1班に1セット）＞  ・ひご  　赤（長いもの）  　グレー（中ぐらいのもの）  　白（短いもの）  ・玉 | |   〇説明を集中して聞くことができるようにひごと玉を配付する前に使い方や注意事項の説明をする。  〇実際にひごと玉をつないで見せ、作り方のイメージをもてるようにする。  〇4人グループを作り、ひごと玉を各グループに配付する。  〇箱を作るのが難しい児童には、紙で作った箱と対応させることで、手がかりが得られるようにする。  〇箱を作ることができた児童には、他児の箱と見比べてみるように声をかける。  ○話し合いに集中できるよう、ひごと玉は箱にしまい、机は元に戻す。  ○他児の箱と比べながら共通点と相違点に気付けるようにする。  ○児童が作る箱が偏ってしまったときのために、どのパターンの箱も事前に作って用意しておく。  ○面を写し取った際に学んだことと結び付けながら、正方形の面があるときに同じ長さの辺が4本ずつではなくなることが分かるようにする。  評箱の形とひごと玉の数を比べながら共通点と相違点に気付けている。  〇平面の授業で学んだ辺・頂点とのと結び付けられるように、平面の学習を復習しながら対応させる。  ○児童と一緒に本時の学習のまとめをし、学習課題が達成できたことを確認する。  ○グループで協力し合いながら片付けられるように声をかける。 | 3’  3’  10’  3’  15’  1  5’  5’ |

**３　板書計画**

1/24

ひごと玉をつかってはこの形を作ろう。　　　　　　◎ちがうところ

作ったはこの同じところとちがうところを考えよう。・同じ色の本数

＜気付いたこと＞　　　　　　　　　　　　　　　　3色のとき→4本と4本と4本

　　　◎同じところ 　　　　（長方形のみ）

　　　・ひごは12本　　　　　　　　　　　　　　　　　 2色のとき→8本と4本

　　　・玉は８つ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（長方形と正方形）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　1色のとき→12本

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（正方形のみ）

・どのはこもへんは12本、ちょう点は８つである。

・同じ長さのへんは４本ずつである。

**４　備考**在籍児童数　35名